

## 「ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 6 日（日）11:00~12:00

国土交通省ハッ場ダム工事事務所川原湯総合相談センター

発言者：意見発表者 2

まず、ハッ場ダムを、湖を完成させる場合に発生する想定内の地質災害ということです。まず、この国交省の素案に対していくつもの疑問と意見があります。まず、ダム湖を完成させる場合に、地質災害の検証・安全性が私から見るとほとんど検討されていません。地質災害、具体的には、配布したプリントにあると思いますが、その 5 例を皆さんが視覚的に理解できるように最悪シナリオまで踏み込んで描いてみました。地域住民に知らされてない事実がいくつもあります。まず、ハッ場ダムはどこにできるかという、本体ダムは上流域にできるのが普通なのですが、吾妻川の中流域にできます。それも南の方から見ていきますとある山脈状に繋がった所を切って吾妻峡ができています。V 字にできています。その所にできると。その山脈状のものは今から 2 3 万年前に造られた地形です。非常に新しい地形です。だから実際に岩が硬くても断層やひび割れがいっぱい入っている場所になります。それでその場所ハッ場ダムの所ですが、ここに地図に表したのですが、ダム堤があつて吾妻川が流れています。吾妻川の所には大きな断層が 2 本あります。1 本は吾妻溪谷断層といわれる断層で、ダムの直下を通過します。ところが国交省の開示請求資料を見ますと、まったく断層が画いてありません。ところが聴くところによると断層はあります。また、●●●●というか地質調査所で作った地質図にちゃんと画いてあります。どこかで断層が消されてしまっているのです。その断層は、これが断層です。ひとつ。もうひとつは、見晴台東断層という断層があります。それは、「小蓬菜」と「見晴台」と言われている下を通る断層で、幅が 5 m 近くあります。大規模なものです。これはダムの直下を通るのではなくて南側の端を通ってダムの下にいきます。斜めの断層です。で私がひとつ気になったのが、このダムを造る時に地方整備局の事業評価監視委員会の方でダムをコスト縮減できるという案を出したのです。要するに石は硬いと。硬いけどひび割れは無視していく訳ですが。要するに断層を無視して造ると今まではコンサルタントが 20 m ぐらい掘削してしっかりしないと漏水等あつて危ないんだと言っていたんです。それをまったく無視した別の機関でたった 5 m ぐらい掘れば言いと、ところによっては 3 m ですむんだと。ダムの本体のコンクリート量も 4 割以上削減できると。こんな事をしたらどうなるかと言うと、プリントの方に書いてありますが、漏水が始まって先ほどの方も言っていますが、1 億トンの水が貯まります。かなりの水圧です。下手をすれば、ダムの足元がすくわれて決壊すると下流に大災害を起こす可能性があります。福島原発どころではありません。それから、代替地がいくつかありますが、代替地に問題がいっぱいあります。まず川原畑代替地です。ここは、コンクリートや鉄を溶かす酸性変質帯からできています。この場所ですが、ここの粘土質の所に簡易的な PH 紙を当てます。そうすると、PH 値が 1 ~ 3 を示します。1 ~ 3 というのは草津白根の温泉街がありますが、そこを流れる温泉とまったく同じです。草津温泉に鉄とかコンクリートをつけておくと 1 週間でなくなってしまいます。現にこの部分が川原畑の所になりますが、切土面を掘削している時から崩落が始まっています。現在でも 1 4 5 号バイパスがある所ですが、道が通れなくて S 字のカーブになっています。まあこういうとにか脆い岩だということです。それを近くで見た写真がこれになりますが、何かでつばっているものがあると思いますが、アンカーボルトと言って、崩れないように数 m の大きな釘を打つわけです。これは、開示請求を見ますと、酸性水対

策をまったくしていません。ただの鉄釘です。いま掘ったとしても数年から数十年先にはこれは鉄は溶けてしまいます。それでこのところは良く見ますと、赤っぽくなって廻りは草が生えていますがここは草が生えていません。植物も生えないとそれなりにかなり危険な場所だということがお分かりになると思います。水質的にも危険なはずです。その崩壊過程についてもプリントにありますから、ごらんになってください。それから今度は場所を変えて南側に移して、打越代替地です。ここを見ますと、このところの左側の方が、最初に造った時2004年にとった写真でここを見てもらうと石垣の石として平坦と並んでいるのです。要するにダム湖になった時にダムの湖水面でさざなみがたったり、ダムの水位が変わっても侵食されないようにしっかり造ったのです。ところが、この石は変質した凝灰角礫岩というグリーンタフと言いますが、そのために5年たったあと石がぼろぼろになっています。普通の土と同じなのです。こういうところで、そのまま造っていると崩れてしまいます。要するに、いろんな形で数字マジックや安全神話で時間はごまかすことはできないのです。それから、打越代替地はまだあります。ダムの所で盛土のところですね、これは盛土工事中のところですが、ここはさらに上にいろいろかぶしてありますが、雨が降ったあとこの下の方から土砂と水と一緒に流れ出しているのです。要は、地下に水が浸透し地下水が下の方にきまして、昔の沢底から下に沈まないから沢となって出てくると。要は、こういう場所が打越沢ということですね。打越沢のところ、8月7日この部分で崩壊した部分があります。いまシートをかぶしてありますが、ここは近くに行けないのでよく分からない部分があるのですが、沢がありますから、結局地下で水が浸み込んでいて地表にでていない状態ではないかと。要は谷や沢というのは、ゆっくり谷や沢に戻るんです。どんなことをしても。それで、地球の宿命で地球からのシグナルを示していることになります。それで、ええと、地下水に焦点を合わせてイラストを作ったものがプリントにあります。特に問題になるのが、現時点であれば対応できるのです。ところが、ダム湖にしてしまうとダムというのは治水・利水の為に、最大30m近い上下動がある訳です。ビルにしますと10階建てのビルです。10階建てのビルが毎年、建ったり無くなったりするのと同じなんです。当然、そうすれば地下水位は変動するはず。その時どんな状況になるかはこのシナリオ図が示す通りになります。更に上流の方に行きますと、今度は上湯原代替地という所があります。ここは川原湯温泉のJRの新しい駅が造られる所で、いまは工事中だと思います。この場所は、どなたでもわかるように急斜面です。これは昭和5年にも土石流が発生しております。この上湯原代替地も先ほどの打越と同じように、まずバック側というか山斜面側からは土石流だとか崩落がひっきりなしにきます。ダムの湖になれば川の水が全部集まってくるから、地すべり等を起こして湖のほうに盛土が沈んでしまいます。要はまだ工事が完了していないわけですから、今後ストレステストを実施して、本来このところは全部プールになるように鉄筋コンクリートですべて覆うのが本来の筋だと思います。安全に住むためには。それから、横壁代替地どんどん上流の方に行きますが、ここは「丸岩」とか「高ジョッキ」という岩山をバックに控えています。この所に代替地が造られています。代替地を造るに当たって、発掘調査を行いました。発掘調査を行った所、半円筒形の凹みがあるとおもいます。これは、崩落、要するに右側が崖になっていますから、そちらに向かって陥没したところです。問題なのは、この所の陥没する端の所まで中世のやかたの敷石があったところなんです。その敷石と一緒に陥没した所に落ちている。中世以降にできた斜面崩壊です。手前に石がごろごろあると思いますが、このあたりは縄文遺跡がいっぱいあります。ところが縄文遺跡の上に土石流の礫がごろごろと転がっています。だから縄文人は、土石流があったためにこの地を離れたんだと思います。そうした所はやがて中世の時代に忘れてからやかたを造ったと。現在ここに何があるかと代替地を造っていると。でもある程度救われるのは、その上流の方に砂防ダムを作ったりそれなりの対策を考えているように見えます。

私も素人ですので良く分かりませんが、とりあえず他の代替地に比べれば横壁の代替地の方が災害対策としては想定内で合格だと思います。後はまったく不合格です。それから、検証にかかわる素案で、ダムができた場合その下流に国指定の名勝の吾妻峡がある訳です。この吾妻峡の景観を守るためにどういふことをするかと言うと、普段は渇水状態なんです、ここの場所にダムである程度の量の水量を流すと、水位にしては1mぐらいの高さと、1mの高さではどうしようもないと思うんですが、どういふ事かと言うと、ここに鹿飛橋の右は渇水時ですね、左が増水時、増水すると十数mに水位があがるんです。非常に狭い所ですから。それによって、岩肌が研磨されてコケとか草が生えないようにすんでいるんです。だから岩が良く見えて、岩と自然がおりなす芸術が生んでいるわけです。ここの状態がダムができると無くなります。ダムが同じように増水してくれば良いのですが、そのような事はしないはずで、下久保ダムの下流にある三波石峡は消滅してしまいました。地元では大変悲しがっています。地元の研究者、わたしですが、忠告すること、ダム湖は代替地を湖底に沈んで消滅させます。推進関係者はダム完成まで地元で不満を煽らずに安全安全と言っております。これは福島原発とまったく同じ構図です。しらずにいれば大災害につながっていきます。このバックの写真は、国内最大の貯水量を誇る岐阜の徳山ダムです。2008年に完成したそうです。でここのところで、ダム湖ですから水の水面が上下します。ここに白い部分があると思いますが、これは全部地滑りです。ただここで、救われるのはここの住民は全部移転しましたから、無人地帯で被害を受けるものがないことです。最後に湖にすると今のままでは大変危険です。地球からのシグナルに耳を傾けてダム版ストレステストの実施を第三者機関を通じて行って頂ければと、それから数字や法律が代替地に住むのではないのです。人々が暮らしを立てて住むのです。そういうことを言って終わりにします。

以上